

短大特任教員教育研究業績書

平成 30 年 5 月 3 日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
赤羽 尚美	あかはね なおみ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授 <u>講師</u> ・助教	男・ <u>女</u>

担当科目名

言葉指導法, 保育の心理学

学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成 17 (2005) 年 4 月	日本女子大学 通信教育課程家政 学部 児童学科 編入	
平成 20 (2008) 年 3 月	日本女子大学 通信教育課程家政 学部 児童学科 卒業	学士(家政)
平成 21 (2009) 年 4 月	白百合女子大学大学院 文学研究科 発達心理学専攻(修士課程) 入学	
平成 23 (2011) 年 3 月	白百合女子大学大学院 文学研究科 発達心理学専攻(修士課程) 修了	修士(心理学)
平成 23 (2011) 年 4 月	フェリス女学院大学 人文科学研究科 博士後期課程 英文学専攻 入学	
平成 28 (2016) 年 3 月	フェリス女学院大学 人文科学研究科 博士後期課程 英文学専攻 修了	博士(文学)

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
安宅建材株式会社	昭和 63 年 4 月～平成元年 10 月まで	一般事務
フェリス女学院大学文学部英語英米文学科	平成 23 年 4 月～平成 24 年 8 月まで	ティーチングアシスタント
医療法人淡青会品川・新橋心療内科	平成 23 年 10 月～平成 24 年 5 月まで	精神科クリニック心理療法士
新橋 14 クリニック	平成 24 年 8 月～平成 29 年 3 月	精神科クリニック心理療法士
東京都教育委員会	平成 25 年 4 月～現在に至る	東京都公立学校スクールカウンセラー(特別職非常勤職員)
小田原短期大学	平成 29 年 4 月～現在に至る	保育学科通信教育課程 講師

所属学会等

名称	活動期間	活動内容(役職等の活動を含む)
絵本学会	平成 22 年～現在に至る	研究大会発表, ラウンドテーブル話題提供
日本イギリス児童文学会	平成 23 年～現在に至る	研究大会発表
日本心理臨床学会	平成 24 年～現在に至る	学会参加
日本臨床心理士会	平成 24 年～現在に至る	学会参加, 講習会参加, 研修参加, 心と健康会議参加
日本発達心理学会	平成 25 年～現在に至る	研究大会発表
日本子育て学会	平成 29 年～現在に至る	学会参加
International Research Society for Children's Literature	平成 26 年～現在に至る	研究大会発表

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
白百合女子大学生涯発達研究教育センター	平成 23 年 4 月～現在に至る	乳幼児発達研究会および文化行動比較分科会参加

担当教科目に関する資格・免許等				
名称	取得年月	取得機関		
臨床心理士	平成24年 4月	公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会		
中学校教諭2級(家庭)	昭和63年 3月	愛知県教育委員会		
研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 学びあう絵本と育ちあう共同行為としての読み聞かせ	単	平成29年 12月	風間書房	本書は博士学位論文「絵本と育児(育自)―子どもと大人、それぞれの発達」に加筆修正を行い、親子が共に学びあい、育ちあうための言葉を介したコミュニケーション活動の重要性と、やりとりの手段となる絵本や読み聞かせについて、文学的視点からの絵本論と心理学的視点からの発達研究を合わせて論じている。また親子の相互発達という側面に加えて、現代の育児事情や親子関係における絵本や読み聞かせの意義を再考し、教育の主体となる子どもの権利を保障するためにも絵本や読み聞かせが今後一層重要となることを示唆した。(2017年度フェリス女学院大学博士論文刊行費助成授与) [全433頁]
2. 絵とテキストの名指揮者 ケンティン・ブレイク―見えないものを描くイラストレーター―	共	平成30年 5月	ミネルヴァ書房『絵を読み解く 絵本入門』(藤本朝巳・生田美明 編著)	藤本朝巳・生田美秋(編著)『絵を読み解く 絵本入門』イラストレーター、絵本作家として活躍中のケンティン・ブレイクは、筆づかいを最小限にとどめたカリグラフィックの手法により、豊かな情感を醸し出すことに長けている。『悲しい本 SAD BOOK』は、作者マイケル・ローゼンの実体験をもとに創作され、息子の喪失にうちひしがれる男性の悲しみがテーマになっている。ブレイクは、背景の絵や悲しみと対立する幸せな場面との対比などによって視覚化が難しい悲しみの深さを表現したばかりではなく、1本のろうそくの大きく強い光を描くことにより、悲しみのうちに秘められた生きる希望をも引き出している。[pp.224-229]
(学術論文) 1. 修士論文 家庭における絵本の読み聞かせ―さまざまな場面から子どもの発達への影響を考える	単	平成23年3月	白百合女子大学大学院文学研究科発達心理学専攻	幼稚園及び保育園在園児の保護者を対象とした「家庭における読み聞かせ」「子どもの社会性」「親の関わり」に関する質問紙調査を統計的手法によって分析し、絵本の読み聞かせと子どもの社会性の発達、親子関係の傾向を検証した。また、家庭で行われる読み聞かせ場面の観察により、読み聞かせの中でみられる親と子の発話や動作から、微視的な発達の変化を分析した。その結果、読み聞かせが親子の活動として発展するためには、適切な絵本選びや親の働きかけなどの足場作りが重要であることを示唆した。[202頁]
2. 家庭における絵本の読み聞かせ―親の関わりと子どもの発達への影響	単	平成23年12月	生涯発達心理学研究第3号(白百合女子大学生涯発達研究教育センター紀要)	修士論文に加筆修正を行い、絵本の読み聞かせを行っている家庭を対象とした、読み聞かせと子どもの社会性、及び親子の関わりを問う質問紙調査を統計的手法によって分析した。その結果、絵本の読み聞かせが、子どもの社会性の発達や親的な態度を促し、親子間の信頼感を高める可能性があることを示唆した。また、父親の読み聞かせへの参加が、子どもの協調的態度の発達に影響する可能性を示唆した。[pp.32-44]

<p>3. 絵本表現に見られる育ち合う親子: <i>little blue and yellow</i> に読む子どもと大人の心</p>	<p>単</p>	<p>平成 24 年 3 月</p>	<p>フェリス女学院大学 人文科学研究科英文学英語学研究会 Ferris Research Papers No.2</p>	<p>Leo Lionni の絵本 <i>little blue and yellow</i> を取り上げ、幾何学図形で表現された登場人物の動きや絵本の表現技法などから親と子の心理を読み取り、親子がそれぞれに葛藤を抱えながら、親が子どもを理解したり、子どもが自らの行動を反省したりしながら育ち合うことを論じた。本書には、就学期の子どもが学校や放課後の様子が描かれている。子どもの強い欲求は時に大人にとって不適切な行為とみなされることがあるが、そこには健康な成長へのエッセンスがみなぎっている。親もまた子どもの成長過程で悩みながら親として成長していくことを作品分析によって示唆した。 [pp.45-65]</p>
<p>4. 笑われる大人: Beatrix Potter の描くリアリティ</p>	<p>単</p>	<p>平成 25 年 3 月</p>	<p>フェリス女学院大学 人文科学研究科英文学英語学研究会 Ferris Research Papers No.3</p>	<p>Potter の絵本には擬人化された動物たちが登場し、人間のあらゆる側面を描写しているといっても過言ではないだろう。通常、子どもの本の主人公は子どもであることが多いが、Potter の作品には主人公、脇役ともに大人も多く登場している。大人たちは時に皮肉を込めて描かれ、ユーモラスではあるが、子どもの教育的な見本となるような理想像とは異なることもある。人間の良い面と悪い面の両方があるままに描かれるリアリティを読み取り、笑われる大人が絵本に登場することの意味を心理学的な視点を加えて論じた。 [pp.4-26]</p>
<p>5. 楽しさがつなぐ大人・絵本・子ども</p>	<p>単</p>	<p>平成 26 年 3 月</p>	<p>フェリス女学院大学 人文科学研究科英文学英語学研究会 Ferris Research Papers No.4</p>	<p>絵本は、幼児期の子どもにとって大人から読んでもらう本である。幼い子どもの養育者は、子どもが言葉を発し始める頃から、言葉や情緒の発達、子どもとのコミュニケーションなどを願って読み聞かせを始めることが多いが、絵本は大人にとっても育児や子どもの成長を学ぶための情報を提示している。本論では、大人も子どもに絵本を読みながら心を通わせあい、共に学びあう楽しさを知る必要を論じた。 [pp.4-33]</p>
<p>6. 絵本と育児(育自) —子どもと大人, それぞれの発達 (博士学位論文)</p>	<p>単</p>	<p>平成 28 年 3 月</p>	<p>フェリス女学院大学 人文科学研究科英文学専攻</p>	<p>本論文は、文学的研究の視点から絵本の特性を論じた上で、絵本を親子の共同行為の記号(言葉)媒介物とみなす読み聞かせの発達の効果を検証する心理学的アプローチを加え、絵本や読み聞かせの意義を考察している。また、新規な試みとして読み聞かせと育児ストレスの関連を検証した結果、絵本や読み聞かせが、大人と子どもが学び合う相互発達の場として機能するためには、読み手の楽しさを充実させる支援も必要であることを提示した。 [全 453 頁]</p>
<p>7. 研究ノート: モーリス・センダックのポター論検証: 削除された 4 枚のイラストレーション</p>	<p>共</p>	<p>平成 25 年 3 月</p>	<p>絵本学 (絵本学会研究紀要第 15 号)</p>	<p>藤本朝巳, 永井雅子, 赤羽尚美 (執筆担当: はじめに, I, II, おわりに pp.39-41, pp.43-44) 本研究ノートは絵本学会第 15 回研究大会にて口頭発表した研究をまとめたものである。現代絵本界の代表とも言われるモーリス・センダックは、Beatrix Potter のデビュー作となった <i>The Tale of Peter Rabbit</i> の私家版から削除された 4 枚のイラストレーションの価値を言及している。本研究は、センダックの批評を踏まえてポターのイラストレーションの特徴を省察したうえで、幼い読者に向けた編集の意図と作品の商業的価値を分析した点に意味がある。 [pp.39-46] (2011 年度絵本学会研究助成授与)</p>

<p>(その他) <特集記事> 1. ポターと恋</p>	単	平成24年12月	絵本 BOOKEND 2012 絵本学会機関誌編集委員会	2012年は世界的なロングセラー絵本 <i>The Tale of Peter Rabbit</i> の110周年記念であった。絵本学会では『絵本 BOOKEND』にて本作品と著者の特集を組み、さまざまな視点からポターやその作品を再考する機会が設けられた。「ポターと恋」では、100年以上にわたって世界中の子どもや大人を魅了し続ける作品を創出する原動力ともなったポターの恋と、自立した女性として活躍するための安定した基盤をもたらした結婚について論じ、女性の生き方に心理的な影響を及ぼす恋愛の一例を提示した。[pp.24-27]
2. 育児支援を考える読者論としての絵本研究	単	平成26年10月	絵本 BOOKEND 2014 絵本学会機関誌編集委員会	絵本は今や教育学や心理学などさまざまな研究領域から注目され、海外では学際的な研究も進められているが、一般的には幼い子どものために読む本として認識されている。絵本の読み聞かせは、子どもの成長や発達、または親子の相互発達などに着目した効果検証が多く示唆されてきたが、子どもに読んであげなくてはならない絵本は、養育者の育児ストレスを引き起こす可能性もある。親子が読み聞かせを楽しむためには、負の側面も視野に入れた読者論の必要性を提示した。[pp.26-29]
<p><学会発表> 1. モーリス・センダックのポター論検証—削除された4枚のイラストレーション—</p>	共	平成24年6月3日	絵本学会第15回研究大会（熊本県山鹿市八千代座）	藤本朝巳、永井雅子、赤羽尚美 <i>The Tale of Peter Rabbit</i> の私家版には、20世紀を代表する絵本作家、モーリス・センダックによるエッセイが寄せられている。センダックは本作品の商業出版に際して、現実の厳しさをも子どもたちに教える作者の意図が失われていることなどを批判している。本研究では、現代創作絵本の先駆けとなり、後に数度の改訂が行われながら現在も多くの子どもの学びとなり得る絵本の作品としての完成度と、商品としての編集の両面から検証した。（研究担当：4枚のイラストレーションのうち2枚の分析）
2. Beatrix Potter と Jane Austen—不屈の女性たちの象牙の細工	単	平成24年11月24日	日本イギリス児童文学学会第41回研究大会（東京都大東文化大学）	ポターは結婚に憧れ、恋愛や結婚をテーマとするジェイン・オースティンの小説に親しんでいた。一方で、菌糸類の研究者や絵本作家、農場経営者として独立を目指したポターは、鋭い観察眼をもって自然や生活の現実を描写している。ポターの作品に見られる現実に即した嘘のない描写と、オースティンのシェイクスピアに匹敵する際立った人間描写にみられるリアリティについて、人間の行動や心理が異なるメディアでどのように表現されているかを提示した。
3. 子育て期に絵本—大人にとっての絵本と役割	単	平成26年5月31日	絵本学会第17回研究大会（愛知県刈谷市総合文化センター）	幼児期の子どもを持つ養育者は、子どもと一緒に絵本を読み合う中で、絵本をどのように受容し、絵本から何を得ているのだろうか。家庭で行われている読み聞かせの実態から、育児期の大人読者の絵本観を把握し、絵本が子育て期の大人に果たす役割について検討した。また、読み聞かせは親子の相互発達に役立つ一方で、絵本を楽しめずに読む養育者にとっては、育児のストレスを増す危険性があることを示唆した。

<p>4. “The Disappearance of Childhood and Reconsidering it in Japan” (日本における子ども期の消失を再考する」¥)</p>	<p>単</p>	<p>平成 27 年 8 月 12 日</p>	<p>The 22nd Biennial congress of IRSCCL (International Research Society for Children’s Literature)</p>	<p>The purpose of this presentation is reconsidering what is necessary for children to secure their childhood by themselves. It is said that Japanese childhood has disappeared along with the popularization of TV, the disorganization of community and ubiquity of the early education. I will illustrate the Japanese childhood with an example which is <i>Brave Story</i> by Miyuki Miyabe, and suggest an understanding of true happiness of childhood with four keywords, family, courage, friendship, and growing. 昨今は「子ども期」の消失が懸念されている。日本では視覚メディアの普及や地域性の消失、過剰な早期教育への関心などの影響によって、子どもたちは子どもらしく過ごす時間を主体的に守らなくてはならない状況となっている。子どもたちは、自らの健康な成長・発達のために何を必要としているだろうか。本研究では、エリクソンの心理社会的発達理論などを援用して、宮部みゆきの小説『ブレイブ・ストーリー』を例に、子ども期の成長に重要な家族、友だち、困難に挑む勇氣について考察した。</p>
<p>5. “An Analysis of modern childhood and adulthood in <i>Spirited Away</i>” (『千と千尋の神隠し』における現代子ども期の分析)</p>	<p>単</p>	<p>平成 29 年 7 月 31 日</p>	<p>The 23rd Biennial congress of IRSCCL (International Research Society for Children’s Literature)</p>	<p>The purpose of this study is mainly to discuss how modern childhood and adulthood are expressed in <i>Spirited Away</i> with psychological analysis of some of the characters; Chihiro (Sen), Haku, Chihiro's parents, the twin witches (Yubaba and Zeniba), River Spirit, and Noh-face. Also, I will show how she copes with her challenges to make her parents who are changed into pigs, return to their former states. As Chihiro has to help her parents out of the spirit world, the relationships between adults and children in our modern society appear in reverse. This study, it is hoped, will give a better understanding of what it is to be a child or an adult, and about childhood and adulthood. 本研究では、宮崎駿監督による『千と千尋の神隠し』に描かれた登場人物を心理学的に分析し、主人公が異世界でさまざまな困難に立ち向かいながら人として成長していく意味を、現代社会の大人と子どもの関係性に着目して論じた。本作品が提示する子どもが親を助けるという逆転現象は、親の教育力の低下を象徴しているとも考えられ、改めて子どもと大人、大人が守るべき子ども期と子どもの可能性への期待について現代的な視点を示唆した。</p>
<p>6. 保育専門学校生における子育て意識 (ポスター発表)</p>	<p>共</p>	<p>平成 30 年 3 月 24 日</p>	<p>日本発達心理学会第 29 回大会</p>	<p>赤羽尚美, 吉野さやか 本研究では、保育士・幼稚園教諭養成専門学校の学生を対象として、学びを深める過程における子どもや育児に関する意識変化を明らかにした。算出した下位尺度得点「子への悩み」と「支援要求」について学年、および実習回数による有意差がみられ、学年と共に実習回数が増えるにつれて、「子への悩み」と園に対する「支援要求」が低下した。これらの結果から、子どもを客観的に理解し、保育サービスの担い手としての意識が高まる可能性が示唆された。</p>

<p>その他（表彰等）</p> <p><ラウンド・テーブル話題提供></p>	<p>共</p>	<p>平成 28 年 5 月 29 日</p>	<p>絵本学会第 19 回研究大会（京都市京都女子大学）</p>	<p>藤本朝巳（フェリス女学院大学）、岩沢雄一郎（公益法人伊藤忠記念財団）、<u>赤羽尚美</u>（東京都スクールカウンセラー）</p> <p>ラウンド・テーブルCプログラムにて、藤本氏がコーディネーターを務め、岩沢氏による文庫活動助成の紹介・報告と合わせて、赤羽が親子の絵本の読み聞かせの実態を報告した。会場の参加者と共に、地域や家庭における子どもの豊かな読書経験を支えるために必要な支援などについて考え、子どもと大人が本を読みあう読書推進活動の課題を討論した。</p>
----------------------------------------------	----------	-------------------------	----------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------